

令和  
京都  
元年

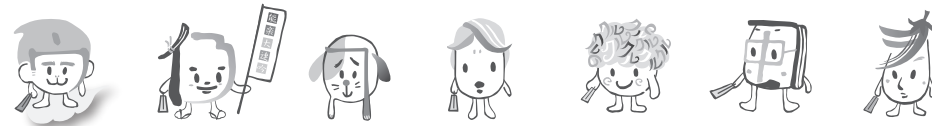
# 観世流 能楽大連吟

## お稽古帳

### 謡十五徳

- |                          |                         |
|--------------------------|-------------------------|
| 一、不行而知名所<br>行かずに名所を知る    | 一、不老而知古事<br>老いせずに古事を知る  |
| 一、在旅而得知音<br>旅に在りて知音を得る   | 一、不恋而懐美人<br>恋せずに美人を懐う   |
| 一、不習而織歌道<br>習わずして歌道を織る   | 一、不馴而近武芸<br>馴れずに武芸に近づく  |
| 一、不詠而望花月<br>詠まらずして花月を望む  | 一、不軍而識戦場<br>軍せずに戦場を知る   |
| 一、無友而慰閑居<br>友なくして閑居を慰む   | 一、不祈而得神徳<br>祈らずして神徳を得る  |
| 一、無薬而散鬱気<br>薬無くして鬱気を散ず   | 一、不触而知仏道<br>触れずに仏道を知る   |
| 一、不思而昇座上<br>思わずして座上に昇る   | 一、不巖而嗜形美<br>巖ならずして形美を嗜む |
| 一、不望而交高位<br>望まらずして高位と交わる |                         |

このお稽古帳は大切に保管してください。



No.	氏名
-----	----

詳細・お問い合わせは下記ホームページをご覧ください。



能楽大連吟ホームページ

<http://dairengin.com>



能楽大連吟実行委員会事務局 E-mail: mail@dairengin.com

主催:能楽大連吟実行委員会 後援:京都府、京都市、京都新聞、KBS京都 協力:本家福井十松屋、繪書店  
企画構成:能楽大連吟実行委員会 制作:萩原麗子 デザイン:有限会社ウィット

令和  
京都  
元年

華やかなスタイリッシュ派 /

# 観世流 能楽大連吟

 大連吟って何？

能楽大連吟(のうがくだいれんぎん)は「謡」を通して古き良き日本文化を知ると共に、世代を超えた多くの人との「合唱」によってコミュニケーションの輪を広げようという新たな試みです。

謡独自の発声法を身につけることで、伸びやかな声になり、まっすぐな美しい姿勢も身につきます。

2008年に京都で始まった能楽大連吟。12回目を迎える今年は、能「高砂」を全能で上演します。

「いつかは1,000人。目指すは10,000人!!」毎年、恒例行事になる事を目指して、京都から発信しています。

2019年の終わりに、世界中の平和と幸福を祈って、共に「高砂」を謡いましょう！



演目 たかさご  
**高砂**とは？

相生の松から夫婦愛と長寿、国土安穩を祝う能の作品です。古くから新年の宴席や結婚式などで謡われてきました。

能は一番目物から五番目物までジャンル分けされており、高砂は脇能(一番目物)として扱われ、その一節は能公演一日の締めくくりとしてもよく謡われています。



しかいなみ まちうたい  
大連吟では、四海波、ロンギ、待謡、後場の地謡を皆様に謡っていただきます。

— 昔は男であれば当たり前、女性においても武家の子女ならば当たり前 —

**この大連吟を機に高らかに謡ってしまおう高砂を!**

 能のあらすじ

~阿蘇の宮の神主さんが、都見物したいと思うて都に向かっている最中、高砂(播磨-兵庫)に立ち寄ったそう。そこは綺麗な浦と松が美しく、鐘の音まで聞こえるいい情景だったそうじゃ。~

そこにどこからともなく老夫婦が現れて、木陰を掃きはじめました。神主は「高砂の松はどこじゃ?」と問うと、「高砂の松と住吉の松とは相生の松での。離れていても夫婦なんじゃよ。」と枯れぬ松の永遠さや夫婦の仲睦まじさを述べたそうです。(四海波)

その後、老夫婦は自分達は高砂・住吉の松の精である事を打ち明け、「住吉でまっているぞよ」と告げ小舟に乗って消えたそう。(ロンギ)-中入-

神主は早速、住吉に向けて舟を出します。(待謡)

住吉へ着いた神主は美しい月光の下、住吉明神に遭遇しました。

影響された住吉明神は天下泰平、国土安穩を祝って颯爽と舞を舞います。(後場)

四海波 (上歌) ツヨク 拍合

	1	2	3	4	5	6	7	8
上	四海波 静かにて。							
上	えにイもオーおさまるーときつかぜ。							
上	えだをーならさぬーみよなれや							
上	ーーー。あいにーあにおいの。							
上	まつこそめでエたーかりけれエエー							
上	ーーー。げにやーあおぎても。							
上	こどもーおろかやーかかるとよ。							
上	すめるーたみとてーゆたかなる。							
上	きみのーめぐみぞーありがたアき							
上	きみイのめぞあ							
	ぐみイ りが アたーき							

ロシギ ツヨク  
拍合

1 2 3 4 5 6 7 8

げになをえたる<sup>ユルメ</sup> まつがえ<sup>ヒキ</sup>の<sup>ヒキ</sup>

ハ ホシヤア<sup>ヒキ</sup> ハ<sup>イリ</sup> ハ<sup>マワシ</sup>

げになをえたる まつがえの。

おいきの<sup>サゲ</sup>おかし<sup>イリマワシ</sup> あらわ<sup>サゲ</sup>して。

そ<sup>オサエ</sup>のな<sup>マワシ</sup>を<sup>サゲ</sup>な<sup>マワシ</sup>のり<sup>スエル</sup> た<sup>マワシ</sup>ま<sup>スエル</sup>え<sup>スエル</sup>や<sup>スエル</sup>ア<sup>スエル</sup>

シテ いまはなにかつつむべき

シテ これはたかきごすみのえの

シテ あいおいのまつのせい

シテ ふうふとげん<sup>サゲ</sup> じ<sup>サゲ</sup>き<sup>サゲ</sup>たり<sup>サゲ</sup>たり。

ふ<sup>サゲ</sup>し<sup>サゲ</sup>ぎ<sup>サゲ</sup>や<sup>サゲ</sup>さ<sup>サゲ</sup>て<sup>サゲ</sup>は<sup>サゲ</sup>な<sup>サゲ</sup>ど<sup>サゲ</sup>こ<sup>サゲ</sup>ろ<sup>サゲ</sup>の<sup>サゲ</sup>。

ま<sup>サゲ</sup>つ<sup>サゲ</sup>の<sup>サゲ</sup>き<sup>サゲ</sup>ど<sup>サゲ</sup>く<sup>サゲ</sup>を<sup>サゲ</sup>あ<sup>サゲ</sup>ら<sup>サゲ</sup>わ<sup>サゲ</sup>し<sup>サゲ</sup>て<sup>サゲ</sup>。

シテ そおもくこころ<sup>サゲ</sup>な<sup>サゲ</sup>け<sup>サゲ</sup>れ<sup>サゲ</sup>ど<sup>サゲ</sup>も<sup>サゲ</sup>。

か<sup>サゲ</sup>し<sup>サゲ</sup>さ<sup>サゲ</sup>き<sup>サゲ</sup>よ<sup>サゲ</sup>と<sup>サゲ</sup>て<sup>サゲ</sup>。

シテ つちもきも<sup>ヒキ</sup>

1 2 3 4 5 6 7 8

。わ<sup>マワシ</sup>ア<sup>マワシ</sup>

が<sup>ヒキ</sup>お<sup>イリ</sup>お<sup>サゲ</sup>き<sup>サゲ</sup>み<sup>サゲ</sup>の<sup>サゲ</sup>く<sup>サゲ</sup>は<sup>サゲ</sup>な<sup>サゲ</sup>れ<sup>サゲ</sup>ば<sup>サゲ</sup>

シ<sup>サゲ</sup>。い<sup>イリマワシ</sup>つ<sup>サゲ</sup>ま<sup>サゲ</sup>で<sup>サゲ</sup>も<sup>サゲ</sup>き<sup>サゲ</sup>み<sup>サゲ</sup>が<sup>サゲ</sup>よ<sup>サゲ</sup>オ<sup>サゲ</sup>に<sup>サゲ</sup>

イ<sup>サゲ</sup>イ<sup>サゲ</sup>。す<sup>オサエ</sup>み<sup>マワシ</sup>よ<sup>サゲ</sup>オ<sup>サゲ</sup>し<sup>サゲ</sup>に<sup>サゲ</sup>ま<sup>サゲ</sup>づ<sup>サゲ</sup>ゆ<sup>サゲ</sup>き<sup>サゲ</sup>イ<sup>サゲ</sup>て<sup>サゲ</sup>。

。あ<sup>オサエ</sup>れ<sup>マワシ</sup>に<sup>サゲ</sup>て<sup>サゲ</sup>。ま<sup>サゲ</sup>ち<sup>サゲ</sup>も<sup>サゲ</sup>お<sup>サゲ</sup>さ<sup>サゲ</sup>ん<sup>サゲ</sup>と<sup>サゲ</sup>

オ<sup>オサエ</sup>オ<sup>サゲ</sup>。い<sup>サゲ</sup>う<sup>サゲ</sup>な<sup>サゲ</sup>み<sup>サゲ</sup>の<sup>サゲ</sup>み<sup>サゲ</sup>ぎ<sup>サゲ</sup>わ<sup>サゲ</sup>なる<sup>サゲ</sup>

う<sup>オサエ</sup>う<sup>サゲ</sup>あ<sup>サゲ</sup>ま<sup>サゲ</sup>

の<sup>マワシ</sup>お<sup>フリ</sup>ぶ<sup>オサエ</sup>ね<sup>マワシ</sup>エ<sup>マワシ</sup>に<sup>マワシ</sup>う<sup>マワシ</sup>う<sup>マワシ</sup>ち<sup>マワシ</sup>の<sup>マワシ</sup>り<sup>マワシ</sup>イ<sup>マワシ</sup>

で<sup>オサエ</sup>ま<sup>マワシ</sup>お<sup>マワシ</sup>い<sup>マワシ</sup>か<sup>マワシ</sup>ぜ<sup>マワシ</sup>に<sup>マワシ</sup>ま<sup>マワシ</sup>か<sup>マワシ</sup>せ<sup>マワシ</sup>つ<sup>マワシ</sup>う<sup>マワシ</sup>

つ<sup>オサエ</sup>。お<sup>オサエ</sup>き<sup>マワシ</sup>の<sup>マワシ</sup>か<sup>マワシ</sup>た<sup>マワシ</sup>に<sup>マワシ</sup>い<sup>マワシ</sup>で<sup>マワシ</sup>に<sup>マワシ</sup>い<sup>マワシ</sup>け<sup>マワシ</sup>り<sup>マワシ</sup>

や<sup>オサエ</sup>ア<sup>オサエ</sup>お<sup>サゲ</sup>き<sup>スエル</sup>の<sup>サゲ</sup>か<sup>スエル</sup>

た<sup>ヒキ</sup>に<sup>ヒキ</sup>い<sup>ヒキ</sup>で<sup>ヒキ</sup>に<sup>ヒキ</sup>け<sup>ヒキ</sup>り<sup>ヒキ</sup>

待謡 ツヨク  
拍合

1 2 3 4 5 6 7 8

上 たかきごや。

上 このうらぶねにほをあげて

上 このうらぶねにほをあげて。

上 つきもろどもにいでしおの。

上 なみのあわじのしまかげや。

上 とおきなるおのおきすぎては

上 アやすみのオえに。つきにけり

上 やすみのえに。つきにけり

Annotations: ユルメ, ヒキ, フリ, クル, イリマワシ, マワシ, オサエ, サゲヒキ, 小マワシ, 中↑, オサエサゲ, サゲスエル, シヅメ

後シテ～舞まで ツヨク  
拍不合

シテ 我見ても久しくなりぬ住吉のー。  
岸の姫松幾代経ぬらーんー。  
睦ましく君は知らずや瑞垣のー。  
久しき世々の神かぐらー。  
夜の鼓の拍子を揃えてー。  
すずしめ給えー。宮つ子たちー

にしのーオ●うーうーうみー。

あーおーオきがーア●はらーアのーオーオー

なみまーアよーオオーオ●オーイイイー

Annotations: フリ, クル, イリマワシ, ヒキ, マワシ, スエル, 中マワシ

シテ 現れ出でしー。神松の。  
春なれやー。残ん乃雪の浅香鴻ー

たーまーアーアもかるなる●きしかーンげのー

Annotations: ヒキ, クル, イリマワシ, ノミブシ

シテ 松根によって腰を摩ればー



# MEMO

## 大連吟

1	2	3	4	5	6	7	8
— — — —	。	さ — ア					
す	か	い	な	か			
は	ア	あ	え	ん	ま	き	は
ら	い	い					
オ	さ	お	る	て	は		
は	ア	じ	ふ	く	き	い	だ
き	い						
エ	ん	じ	ら	え	は	た	み
ま	ん	ぎ	い	ら	え	は	い
ウ	あ	い	お	い	の	まつ	か
っ	さ	ん	の	こ	え	ぞ	た
っ	さ	ん	の	こ	え	ぞ	た

Handwritten annotations and musical symbols include: 'マワシ', 'ヒキ', 'フリ', 'サゲ', 'オサエヒキ', '小マワシ', 'サゲヒキ', 'イリ', 'オサエ', 'サゲ', 'サゲスエル', 'シヅメ', and 'ヒキ'. Arrows and lines indicate pitch contours and phrasing.

## 会場・お稽古場までのアクセス

- お稽古は開始時間になり次第、始めます。
- 申込み不要ですが、会場に人が多い場合はゆずりあってご参加ください。

### お稽古場

#### 京都 KYOTO



#### ◆護王会館(護王神社内)

京都市上京区烏丸通下長者町下ル桜鶴円町385  
(京都御所蛤御門前)  
【交通アクセス】  
地下鉄烏丸線「丸太町」駅より北へ徒歩7分  
市バス51系統にて「烏丸下長者町」下車すぐ

#### 大阪 OSAKA



#### ◆朝陽会館(大阪)

大阪府大阪市北区天神橋1丁目17-8  
【交通アクセス】  
地下鉄谷町線・堺筋線「南森町」駅4番出口、  
JR東西線「大阪天満宮」駅3番出口より徒歩5分

### 本番会場



#### ◆京都市右京ふれあい文化会館

京都市右京区太秦安井西裏町11番地の6  
【交通アクセス】  
地下鉄東西線「太秦天神川」駅下車、  
1番出口より徒歩10分  
JR山陰本線 嵯峨野線「花園」駅下車、徒歩5分  
京福電鉄 嵐山線「嵐電天神川」駅下車、徒歩12分  
市バス 27号系統「右京ふれあい文化会館前」下車  
市バス 91・93号系統「花園駅前」下車  
市バス8・75号系統「黒橋」下車

## お稽古スケジュール

お稽古は、予約不要。参加回数は自由です。参加日に直接会場にお越しください。

### オリエンテーション

オリエンテーションは無料。参加者以外の方もご来場OKです!

**日時** 令和元年8月30日(金) 19:00~

**会場** 護王神社

### 本番

**日時** 令和元年11月23日(土・祝) 15:30 開演

**会場** 京都市右京ふれあい文化会館

### お稽古日程

#### 京都 KYOTO

**会場** 護王会館

**日時**

9月10日(火) 講師:松野  
9月24日(火) 講師:深野  
10月 7日(月) 講師:深野  
10月22日(火・祝) 講師:松野  
11月 5日(火) 講師:深野  
11月18日(月) 講師:松野  
14:30~/15:30~/18:00~/19:00~  
(全回45分)

全体稽古 **日時** 10月25日(金)19:00~ **会場** 護王会館

※お稽古は開始時間の10分程前にお集まりください。

#### 大阪 OSAKA

**会場** 朝陽会館

**日時**

9月17日(火) 講師:今村  
10月 8日(火) 講師:齊藤  
10月29日(火) 講師:今村  
11月12日(火) 講師:齊藤  
18:00~/19:00~  
(全回45分)



能楽大連吟で購入できる販売物、開催する催しのご案内をいたします。

## 大連吟 扇のご案内

### 本家福井十松屋

能楽大連吟では扇だけはおお客様にご用意していただく必要があります。お持ちでない方は、ご自身でお求めいただくか、本家福井十松屋より購入することが出来ます。扇についてわからないことがありましたら、講師までお尋ねください。

- 大連吟オリジナル扇 6,000円(税込)
- 扇袋 2,800円(税込) / 4,500円(税込)

※扇の名入はございません。

## 大連吟鑑賞チケット、DVD、当日着付けのご案内

### 大連吟 鑑賞チケット

能楽大連吟当日の鑑賞チケットです。  
10月の稽古より販売開始となります。

- 本番当日の鑑賞チケット 1,000円(税込)

### 記念DVD

本番当日の様子を記録した記念映像

- DVD/ブルーレイ共 5,000円(税込)

### 当日着付け (予定)

本番当日に着物でご参加されたい方々に

- 無料

※着付けに必要な物は全てご持参いただきます。

## その他のご案内

### 大連吟打ち上げ

能楽大連吟当日後の打ち上げです!参加した方々と感想などを語り合って楽しみましょう。場所が確定しだいご案内いたします。

- 打ち上げ参加費 6,000~8,000円(税込)程

### 高砂神社 バスツアー (遊連吟)

毎年恒例の高砂神社へ謡を奉納するバスツアーです。  
奉納の後は名所、観光スポットをめぐる予定です。

- 2020年1月5日(日)  
参加費 10,000円(税込)程  
※内容によって変更になります

### 各お稽古

申込は  
各講師連絡先へ

各講師が行っている個人の稽古活動です。もっと本格的に謡の稽古がしたい方へおすすめ。  
稽古場や稽古日時など詳細は各講師へお問合せください。  
それ以外のお問い合わせはお控えください。

- 深野 貴彦 Tel/Fax 075-384-0100  
携 帯 090-3278-3694

- 松野 浩行 Tel/Fax 075-821-1904  
携 帯 080-7011-5194

- 齊藤 信輔 Tel/Fax 06-7164-9112  
携 帯 090-7484-3439

- 今村 哲朗 Tel/Fax 06-6958-4794  
携 帯 090-7384-1551

## 高砂詞章

シテ 光り和らぐ西の海の ワキ 彼処は住吉  
シテ 此処は高砂 ワキ 松も色添い シテ 春も ワキ 長閑に

四海波静かにて、國も治まる時つ風。枝を鳴らさぬ御代なれや。あいに相生の、  
松こそ目出たかりけれ。げにや仰ぎても、事も疎かやかかる世に。  
住める民とて豊かなる。君の恵みぞ有難き。君の恵みぞありがたき。

げに名を得たる松が枝の。げに名を得たる松が枝の。  
老木の昔顕して。その名を名のり給えや。  
今は何をかつつむべき。これは高砂住吉の。相生の松の精。夫婦と現じ来たりたり。  
不思議やさては名所の。松の奇特を顕して。  
草木心なけれども。畏き代とて。  
土も木も。  
我が大君の国なれば。何時までも君が代に。  
住吉に先ず行きてあれにて。待ち申さんと。  
夕波の汀なる海士の。小舟にうち乗りて 追風に任せつつ。  
沖の方に出でにけりや。  
沖の方に出でにけり。

高砂やこの浦舟に帆をあげて。この浦舟に帆をあげて。月もろともに出汐の。  
波の淡路の島影や。  
遠く鳴尾の沖過ぎて、早や住の江に着きにけり。早や住の江に着きにけり。

後シテ登場

我見ても久しくなりぬ住吉の。岸の姫松幾代経ぬらん。睦ましと君は知らずや瑞垣の。  
久しき世々の神かぐら。夜の鼓の拍子を揃えて。すゝしめ給え。宮つ子たち。

西の海。憶が原の波間より。現れ出でし。神松の。春なれや。残んの雪の浅香湯。  
玉藻刈るなる岸陰の。松根によって腰を摩れば。千年の翠。手に満てり。  
梅花を折って、頭に挿せば。二月の雪、衣に落つ。

神舞→約10分

有難の影向や。有難の影向や。月住吉の神遊。御影を拝むあらたさよ。  
げにさまざまの舞姫の。声も澄むなり住の江の。  
松影も映るなる、青海波とはこれやらん。  
神と君との道すぐに。都の春に行くべくは。  
それぞ還城楽の舞。さて萬歳の。小忌衣。  
指す腕には。悪魔を拂い。おさむる手には。  
壽福を抱き。千秋楽は民を撫で。  
萬歳楽には命を延ぶ。相生の松風。  
颯々の声ぞ楽しむ、颯々の声ぞ楽しむ。

